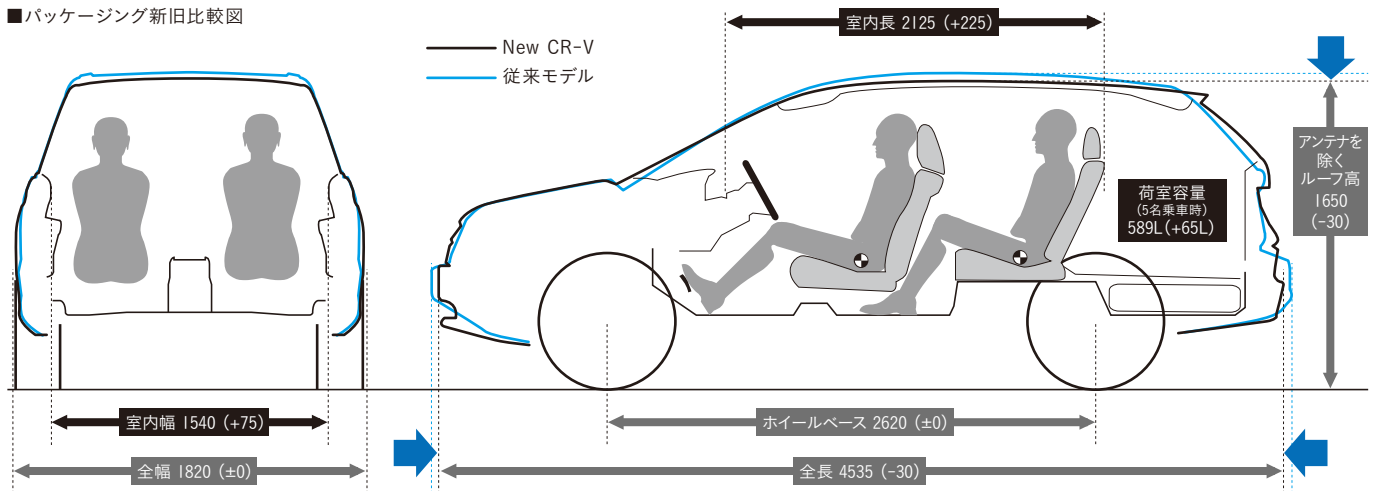


Packaging

ミニバンの広さ、セダンの操縦性。両者を融合した高効率パッケージング。

■パッケージング新旧比較図

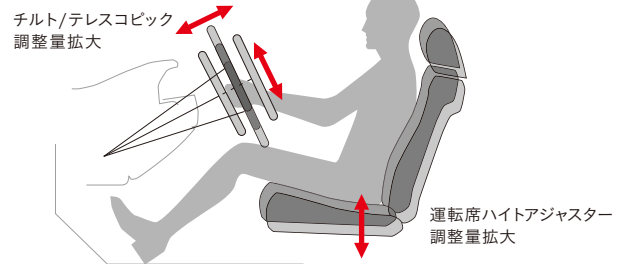


単位:mm ()は従来モデル比 数値はすべてHonda測定値 荷室容量はVDA方式によるHonda測定値

空間のゆとりを活かしながらボディサイズを縮小し、運転のしやすさや使いやすさをさらに向上。

乗用車として運転しやすいこと。ミニバンのような広い空間を備えていること。CR-Vにとってこれらはとても重要な要件といえます。New CR-Vでは、低床・低重心というHonda独自のパッケージング技術を核に、着座位置や姿勢などを検証し、空間効率を徹底的に追求しました。その結果、従来モデルに対し、室内長を225mm延長したのびやかさと、荷室容量を65L拡大したゆとりを実現しながら、ボディ全長を30mm縮小。横方向のゆとりでは、従来モデルと同じ全幅としながら室内幅を75mm拡大しています。また、運転席ではより適切な着座姿勢が得られるよう、ステアリング位置の前後・上下や座面高さの調整量を拡大。同時に、後席のヒップポイントを下げること、前後席とも従来同等のヘッドクリアランスを確保しながらボディ全高を30mm低下。乗用車としての扱いやすさをいっそう高めています。 数値はすべてHonda測定値 荷室容量はVDA方式によるHonda測定値

■運転席の着座姿勢最適化イメージ



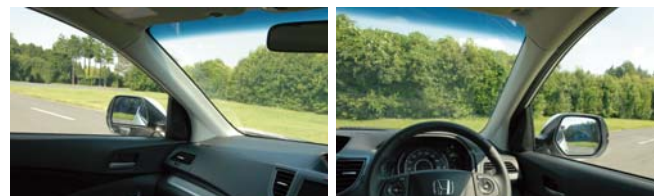
作動イメージ



見通しが良く、取り回しも良好。

運転視界は、SUVならではの高いアイポイントが運転の安心感になると考え、従来を踏襲。加えて、センターピラーの断面を従来よりも細くすることで、交差点やカーブでより見通しの良い視界を実現。最小回転半径も従来と同じ5.5mとし、日常的に扱いやすい取り回し性を確保しています。また、左折時や駐車時などに役立つプリズムアンダーミラーも従来どおりに採用。助手席側ドアミラー下部に内蔵した視野角の広いミラーが左フロントタイヤ付近を広く映すことで安心してステアリング操作が行えます。

■運転席からの視界(左右)



足の軌道を分析し、優れた乗降性を実現。

よりスムーズな乗り降りを可能にするために、前席の乗降時の足の軌道を分析。ボディのサイドシルやサイドシルガーニッシュが足に引っ掛からないよう形状を見直しました。



■乗降性説明図(前席)

